

フォーラム

タイ王国のナレスワン大学看護学部訪問記



千葉 陽子, 牧野 耕次
滋賀県立大学人間看護学部

要旨 滋賀県立大学人間看護学部では、教育・研究における国際化を目指してタイ王国のナレスワン大学看護学部 (Faculty of Nursing, Naresuan University) との連携協定締結に向けた準備を進めている。2022年11月初旬から2023年8月末までの10カ月間、ナレスワン大学からの研究生を本学部で受け入れたことを機に、2023年3月には両校看護学部の学生によるオンライン交流が実現した。この実績をもとに、両学部は関係性強化に向けた協働を始めており、今回、筆者2名が人間看護学部を代表して連携協定締結前の視察に訪れたため、ナレスワン大学および看護学部の概要と、訪問の実際について報告する。

キーワード ナレスワン大学, 看護学部, タイ, 国際交流

I. ナレスワン大学の概要

ナレスワン大学は、タイ王国 (以下、タイ) の首都バンコクから約380km北のピッサヌローク県 (Phisanulok Province) に位置する国立大学である。この地はスコータイ王朝 (1238 ~ 1378年) とアユタヤ王朝 (1350 ~ 1767年) を通して栄え、1584年にビルマ (現ミャンマー) からの独立を宣言したアユタヤ王朝第21代目の王であるナレスワン大王 (King Naresuan) の生誕地としても知られている (タイ国政府観光庁日本事務所, n.d.)。1967年に設立された教育大学 (College of Education) を前身とし、1974年にはバンコクのシーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University) のピッサヌローク・キャンパスとして位置づけられた後、1990年7月29日に正式に大学として認可され、当時の国王よりナレスワン大学と命名された (Naresuan University, 2023)。

ナレスワン大学の敷地面積は2,218,000m²であり (科学技術振興機構, n.d.)、筆者らが所属する滋賀県立大学の約7倍 (滋賀県立大学, n.d.)、東京ドームの約47倍に相当する (東京ドーム, n.d.)。健康科学系7学部、科学技術系7学部、人文・社会科学系6学部の、3学部群・20学部から成る総合大学で、広大なキャンパス内には銀行や郵便局、フィットネスセンター、コンビニエンスストア、バイクショップなどもあり、敷地内には施設間移動のための電動バスが無料走行している。

各学部での学士課程での教育に加え、修士課程84専

攻、博士課程57専攻における大学院教育も充実しており、留学生対象のプログラムも備えている。健康科学系学部群には、看護学部の他に健康科学部 (Faculty of Allied Health Sciences)、歯学部 (Faculty of Dentistry)、医科学部 (Faculty of Medical Science)、医学部 (Faculty of Medicine)、薬学部 (Faculty of Pharmaceutical Sciences)、公衆衛生学部 (Faculty of Public Health) があり、大学病院 (Naresuan University Hospital) や歯科クリニック (Naresuan University Dental Clinic) といった臨床施設も併設している (Naresuan University, 2023)。

II. 看護学部の概要

ナレスワン大学看護学部は、社会や人々のウェル

Visit to the Faculty of Nursing, Naresuan University, Thailand

Yoko Chiba, Koji Makino

School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

2023年9月30日受付, 2024年1月22日受理

連絡先: 千葉 陽子

滋賀県立大学人間看護学部

住 所: 彦根市八坂町 2500

電 話: 0749-28-8665

F A X: 0749-28-9501

e-mail: chiba.y@nurse.usp.ac.jp

ビーイングに貢献するための先導的看護教育機関として能力の高い看護職者を輩出し研究を推進することをミッションとしている。看護学部には学士課程（1学年定員は120名）の他、修士課程、博士課程があり、訪問時点で各課程に497人、108人、30人の学生が在籍しており、総数635人が学んでいた。専門領域は、母子看護（Maternal and Child Nursing）、小児看護（Pediatric Nursing）、成人看護（Adult Nursing）、老年看護（Gerontological Nursing）、地域看護（Community Nursing）、精神看護（Mental Health and Psychiatric Nursing）、看護管理および専門能力開発（Nursing Administration and Professional Development）の7つに分かれており、修士課程には看護管理（Nursing Administration）、成人・老年看護（Adult and Gerontological Nursing）、地域看護ナースプラクティショナー（Community Nurse Practitioner）の3プログラムが設立されている（Faculty of Nursing, 2023）。

教員は、准教授（Associate professor）3人、助教授（Assistant professor）23人、講師（Lecturer）31人の合計57人が教育・研究に従事している。また事務職員34人、学部内保育所職員9人もあわせると、看護学部には合計100人がフルタイムで勤務しており、人的にも大変規模の大きな学部であった。

Ⅲ. 訪問の実際

筆者らは、まずナレスワン大学の学長を表敬訪問した。看護学部長がこれまでの滋賀県立大学人間看護学部との協働の経緯を説明した後、学長からは大学の国際交流の現状に関する話があり、看護学部間での連携への期待が寄せられた。また看護学部でも温かい歓迎を受け、教員間で自己紹介をした後、両国の看護教育についての意見交換を行った。看護学部では、東南アジア諸国の大学をはじめ外国との国際交流を盛んに行っており、タイ側の出席教員全員が外国からの来客をもてなすことに慣れた様子で、われわれとの英語でのコミュニケーションにも問題はなかった。

看護学部では今も戴帽式が重要な行事の一つであり、看護学部棟で見かける白いユニフォームにナースキャップの学生や教員の姿が一昔前の日本の看護界を思い起こさせた。その一方、ラーニングリソースセンター（Learning resource center；学内の演習室がまとまったところ）やシミュレーションラボ（Simulation lab）、教職員用の保育施設の充実には目を見張るものがあった。

ラーニングリソースセンター：専任職員2名と助手数名が常駐しており、複数の病室（ベッドや床頭台あり）、モデル人形、リネン類、ディスプレイ製品などの全てが一元管理されていた。教員は演習スケジュールと必

要物品を専任職員に伝えるだけでよく、専任スタッフが病室や物品の準備、片付け、点検の他、修理依頼や物品購入なども全て行っており、とても効率の良いシステムであった。

シミュレーションラボ：母性・助産、小児、急性期など専門領域ごとに特徴がある物品・モデルが備わった部屋がいくつかあり、各部屋にモニタールーム、スクリーン、コンピューターなども完備されていた。筆者らの訪問前には、フィリピン看護大学の教員が1週間ここを訪れ、シミュレーション教育のワークショップを行ったということで、学生教育のみならずファカルティ・デベロップメント（Faculty Development）にも有効活用されていた。

保育施設：看護学部棟内には保育施設があり、看護学部のみならず他の健康科学系学部の教職員も子どもを預けて働くことができ、いつでも立ち寄れる授乳室も完備されていた。医学部・歯学部・公衆衛生学部との協力により、子どもたちの定期健康診査・発育測定、歯科検診、給食の献立検討が行われており、ナレスワン大学で勤務することが親や子どもにとって大きな利点となっていた。またこの保育施設で小児看護学実習を行っているとのことであった。

この他にも筆者らは、ナレスワン大学病院の看護部への表敬訪問を経て産科・小児科病棟や循環器疾患集中治療室などを見学できた。また、学外にあるタイの伝統医療専門病院も訪れ、鍼、マッサージ、温熱療法など、西洋医学以外のさまざまなアプローチについて実演してもらいながら学ぶことができた。これらの施設でも代表者が自分たちの母語ではない英語を使って懸命に案内・説明して下さったことが大変印象的であった。

Ⅳ. 終わりに

今回タイのナレスワン大学を訪問し、わが国や本学の現状との共通点や違いを体感することができた。またお会いした方々が諸外国との交流を通して国際感覚を身につけておられることや、意見交換を通して互いに多くの点で学び合えることを実感した。コロナ禍で3年以上にもわたり海外渡航が制限されていたことを踏まえると、今後は教員・学生ともに意識的に国外の動向に目を向け、実際にその地に赴き、さまざまなことを吸収していこうとする姿勢を持つことが重要である。この訪問を機に、両看護学部間の教育・研究推進に向けた協働をさらに進めていきたい。

謝 辞

この度の訪タイにおいて私たちが温かくお迎えくださったナレスワン大学の皆様に心より感謝申し上げます。

文 献

- Faculty of Nursing (2023). Overview of the Faculty of Nursing, Naresuan University. Received with permission for dissemination by the Dean of the Faculty. (公表可能との学部長の許可もとでいただいた資料)
- 科学技術振興機構 (n.d.). Science Portal Asia Pacific. <https://spap.jst.go.jp/resource/university/2090014.html> (2023年9月26日参照)
- Naresuan University (2023). Homepage in English. <https://english.nu.ac.th/> (2023年9月26日参照)
- 滋賀県立大学 (n.d.). 大学案内. <https://www.usp.ac.jp/campus/base/tochitatemono/> (2023年9月26日参照)
- 東京ドーム (n.d.). <https://www.tokyo-dome.co.jp/faq/dome/> (2023年9月30日参照)
- タイ国政府観光庁日本事務所 (n.d.). <https://www.thailandtravel.or.jp/areainfo/phitsanulok/> (2023年9月26日参照)